

平成26年度主要施策の成果のあらまし

区は、基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、平成26年3月に「おおた未来プラン10年（後期）」を策定し、「地域力」と「国際都市」をキーワードに、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、これらの主要施策の平成26年度の取り組み内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかその実施状況をご紹介します。

1 「おおた未来プラン10年（後期）」における個別目標ごとの事業費（平成26年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (主な事業数)	取り組みの数	事業費 (平成26年度決算額)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	28	60	20,860,789千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります	25	60	2,737,899千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります	11	26	1,758,693千円
2-1 水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します	25	70	13,501,000千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります	13	19	116,331千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します	18	44	1,126,858千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します	35	68	723,224千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	10	18	1,359,715千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます	10	29	3,583,619千円
合計	175	394	45,768,128千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】
未来プラン10年（平成25年度）
主要施策数（主な事業数）：119
取り組みの数：278

2 主要な事業の実施状況

●個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

待機児童の解消を図るため、認可保育園10か所、認証保育所5か所、小規模保育所7か所など、保育施設の整備等について支援を行ったことにより、保育定員を1,049名拡充することができました。

この結果、平成27年4月1日時点での待機児童数は、前年同日の613名から459名減少し、154名となりました。



私立認可保育所「ベネッセ池上」（H27.4.1開所）

●個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります

平成27年3月に、「障がい者総合サポートセンター さぼーとびあ」を開設しました。さぼーとびあでは、高度な専門性に基づき、障がいをお持ちの方の自立訓練や、就労支援、各種専門相談などを行うほか、障がいの有無に関わらず地域の人々が交流し、余暇を充実したり、障がいへの理解を深めるための事業も実施しています。



障がい者総合サポートセンター さぼーとびあ

●個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります

区内の高齢者人口は今後ますます増加する見込みであり、元気な方は生きがいを持ち地域社会の中で活躍でき、また、介護や支援を必要とする方はサービスを受けながら安心して暮らせるよう、様々な取組みを進めています。

平成26年度は、地域で高齢者が集い、活躍する「ふれあいサロン」活動を六郷地区で開始したり、老人クラブが新たに1団体発足したほか、各種介護予防講座も413回実施しました。



いきいき公園体操講座の様子

●個別目標 2-1 水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

大森駅と荏原町駅を結ぶバス路線が環七通りを渡る「新馬込橋」の架け替えが完了し、平成 26 年 6 月 22 日には周辺住民のご協力を得て盛大に開通式が行われました。

防災上重要な橋梁については架け替えや耐震補強工事を進めるとともに、安全性を確保しながら低コストで橋梁の維持管理していけるよう、平成 26 年度は 118 橋の定期点検を実施し、橋梁長寿命化修繕計画、耐震補強計画の見直しを実施しました。



新規開通した新馬込橋

●個別目標 2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

「スポーツ健康都市宣言」を行った区では、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定などを契機に、年代や性別を超えて誰でもスポーツを楽しめる拠点づくりを進めることとしています。平成 26 年度は、その一環として、大森ふるさとの浜辺公園のさらなる活用を目指し、隣接土地の活用や、水辺のレクリエーション拠点としてふさわしい新規導入施設について検討し、基本計画を策定しました。



大森ふるさとの浜辺公園

●個別目標 2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

区内ものづくり産業の現況把握と、大田区のものづくり産業等の将来ビジョンの策定や今後の施策提案に資する基礎資料の作成を目的として、大田区ものづくり産業等実態調査を実施し、結果検証等を行いました。

また、商店街や消費者等の状況を分析し、地域特性に合った具体的な施策に結び付けていくことを目的に、大田区商店街調査も実施しました。この調査結果を分析し、区と商店街が連携して、未来志向の商店街へと変わっていくための「モデル商店街事業」の手法についても検討を行いました。



商店街でのイベントの様子

●個別目標 3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

これまでの教訓から、震災発生時に公的支援が機能するには時間を要すること、情報の錯綜が生じることが考えられるため、地域力を最大限に活かし、支え合いで災害に立ち向かう場所として、現在 91 か所ある小・中学校などの「避難所」を「学校防災活動拠点」と新たに位置付け、これまでの避難所機能を拡充すると共に、新たに「情報拠点」と「地域活動拠点」の機能を併せ持つ【地域の防災活動拠点化】を進めています。

平成 26 年度は、40 校を拠点として整備し、避難所開設キットを配備すると共に、活動用のガイドブック及び標準マニュアルを改定し、各校に配付しました。このマニュアルの検証も含め、26 校で地域の方と児童・生徒及び教職員が参加した拠点訓練も実施されました。



拠点訓練の様子

●個別目標 3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

ごみの減量については、区民や区内事業者の協力を得ながら取り組みを進めており、区内人口が増加している中でも、徐々にその成果が表れています。平成 26 年度は、粗大ごみに含まれる資源化可能な品目の回収（ピックアップ回収）について、対象エリアを拡大したことにより、回収量は前年度に比べておよそ 2 倍の約 975 トンに増加し、売却益は約 1,800 万円となりました。また、貴金属・レアメタルを含んだ貴重な資源である使用済小型電子機器についても、平成 26 年度は約 1.7 トン回収することができました。



OTAふれあいフェスタでの使用済小型家電回収の様子

●個別目標 3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

新井宿特別出張所の改築工事が完了し、平成 26 年 11 月 25 日から新庁舎での業務を開始しました。1 階ロビーには、新井宿や大森地区の情報を中心に区の魅力を PR するため、観光情報コーナーを常設しました。また、3 階の会議室では、地域住民や、地域にゆかりのある方々の絵画や書を展示したり、地域での公益的活動を行う団体が会合を行うなど、身近にある人や文化の交流拠点として活用されています。



新井宿特別出張所新庁舎